



チーム新星代表
おおきたよしこ
大北良子議員

防犯対策は

問 令和6年度から下校時の児童見守り対策として青色パトロールカーが導入される。予算を計上している根拠と実働する人員の確保は。

答 予算根拠は乗務員である警察OB職員3名分の人件費であり、4月の採用に向けて準備している。

問 それに加えて犬の散歩時を兼ねた見守りや、ランニングパトロールなど、民間ボランティアの導入は考えているのか。

答 他市町では自主的な防犯活動団体があることは承知している。本町でも同様の活動の相談があれば、団体に対する補助制度もあり支援していきたい。

子ども支援センターとは

問 特別支援教育、不登校対策や生徒指導における取組みを一元化するために、子ども支援センターを設置する必要があるが主な内容は。

答 地域学校教育課内に設置し、教育相談の充実を図る。

青色パトロールカーの人員は

答弁 採用に向け準備している

問 小中学校に不登校対策支援員を配置し、家庭・学校・ふれあいルーム・コミセンサテライトでの連携強化に努めるとあるが、具体的にどのようなものか。

答 経験豊富な支援員6名を配置する予定である。当初は児童生徒の理解に努め、定期的な情報交換、情報共有などを通じて、活動を活性化させながらより円滑な体制整備に努めたいと考えている。



▲町内の見守り活動をさらに強化

代表質問



播磨町民の会代表
みやけりょう
宮宅良議員

交通困難者

答弁 初乗り料金相当額の700円である

問 令和4年9月の一般質問で、福祉タクシー利用券や高齢者タクシー料金助成券について、「運賃の経年推移を調査しているのか」「交通困難者を取り巻く環境が変化の中で、対象となる者の範囲拡大や交付上限枚数の引上げなどを検討すべき」と質問しているが、令和6年度施政方針で、同利用券や助成券を700円に引き上げるとあるが根拠は。

答 高齢者の移動支援を充実させる方法を検討し、助成券1枚分の金額を初乗り料金相当額の700円に引き上げる。また、利用券も同様に700円に引き上げる。

タクシー助成券引き上げ根拠は

答 河川等監視カメラは、播磨大橋監視カメラと水田川水位監視カメラを設置しているが、静止映像で曇って見づらい。改善する必要があるのでは。

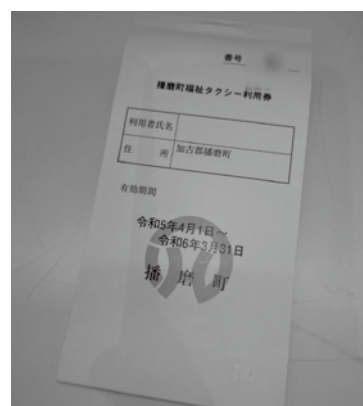
問 河川等監視カメラは、播磨大橋監視カメラと水田川水位監視カメラを設置しているが、静止映像で曇って見づらい。改善する必要があるのでは。

答 技術的・経済的な観点も含め、より良い形で設置していく。

ふるさと納税の活用を

問 中央公民館が地域拠点として機能するためには、個々の団体の活動資金の確保が必要。また、中学校部活動の地域移行も同様、資金確保が必要である。積極的にクラウドファンディング型ふるさと納税を活用すべきでは。

答 クラウドファンディングは有益であり、それぞれ活用を予定していく。



▲タクシー料金の助成充実



委員会では議会閉会中も暮らしやすい町づくりに向けて調査・研究をしています。
なお、詳しい内容は播磨町議会ホームページの委員会報告書をご覧ください。



▲委員会報告書はこちら

総務建設

見守りカメラ設置

1月23日委員会開催

見守りカメラの設置

設置及び管理運用は見守りカメラ設置に関する条例を制定し、個人情報保護の観点も踏まえ適正に管理する。設置台数は町内全域で約250台程度想定している。各自治会に最終位置案を提示し、確定後、令和7年3月末までに設置する。

【主な質疑応答】

問 財源について、国の交付金を活用するとあるが、見込額は。

答 国の「デジタル田園都市構想推進交付金」で2分の1を活用し、上限1億円を考えている。



▲先行実施している加古川市の見守りカメラ

地域公共交通計画(素案)計画書全体の構成は第1章から第6章までで、完成版では参考資料として用語集を追加する。公共交通を取りまく現状、住民アンケート調査、

ゾーン30プラス計画
播磨西小学校付近の通学時に事故が起きやすい箇所、ゾーン30プラスを整備する。
地元住民に説明会を実施し、令和7年3月末までに整備を完了する。

防犯・交通パトロール
町内の防犯パトロールを加古川市に委託しているが、令和6年度より、パトロール日数を増やし町単独の実施に変更する。

町の防犯対策として見守りカメラと防犯・交通パトロールの両輪で安全安心の対策を進める。

地域公共交通計画(素案)計画書全体の構成は第1章から第6章までで、完成版では参考資料として用語集を追加する。公共交通を取りまく現状、住民アンケート調査、

バス利用実態調査などの結果の概要をまとめた上で、持続可能な公共交通体系の確保実現に向けた施策を掲げている。
計画期間は令和6年度から令和10年度までの5年間とし、計画区域は町全域とする。

【主な質疑応答】

問 近隣市町との交通ネットワークの連携を早く進めることは出来ないか。

答 路線バスの土山駅南口から加古川駅ルートが運行休止することから加古川市の「かこバスミニ」の延伸を予定している。

12月20日委員会開催

土山駅北まちづくりの進捗は

「播磨町土山駅周辺地区まちづくりコンセプトブック」の案を広く意見募集し、令和6年2月23日に完成報告会を地域で行い、製本したものを関係者に配布する。

12月20日協議会開催

公共施設等総合管理計画の見直し

本町では高度経済成長期に多くの公共施設、インフラ資産を整備しており、改修時期を迎えていることから、改めて公共施設等の在り方を検討する必要がある。

役場第一庁舎は建築から51年が経過し、大規模改修、機能向上対策を行っているが、スペースの確保が課題となっていることから、建て替えを含めた庁舎の在り方を検討する。

【主な質疑応答】

問 庁舎の建て替えとなると時間がかかるが、期間など計画は想定しているのか。

答 9年後に建築から60年を迎えることとなる。庁舎の現状としてスペースの不足や来庁者の利便性の向上など、多方面からの検討が必要となる。今後、庁舎の問題点などを整理し、大規模改修など

けでなく、建替えを含め、方向性を検討していく。

大池広場周辺の整備

大池広場の利活用について、現在ワークショップの実施に向けて準備を進めている。道路の予備設計は町道浜幹線への接続方法や道路の線形、交差点の形状について、兵庫県公安委員会に事前協議書の提出を行う状況である。

今後は地域住民に対して道路線形や大池広場の敷地形態を示した上で、活用方法についてワークショップを実施する。

【主な質疑応答】

問 道路整備について敷地所有者からの用地買収は進んでいるのか。

答 地権者が9名程度おられ、道路の中心線や交差点など、兵庫県公安委員会との協議が完了してから用地買収することになる。